



Hybrid Piano NU1

基本編

応用編

資料

取扱説明書

ご使用の前に必ず4~7ページの「安全上のご注意」
をお読みください。

JA

このたびは、ヤマハハイブリッドピアノをお買い求めいただきまして、
誠にありがとうございます。
この楽器の優れた機能を十分に活かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

何物にも代え難いアコースティックピアノの価値と、演奏者に自由をもたらすデジタル技術
を融合したピアノ、それがハイブリッドピアノです。

特長

アップライトピアノアクションによる本物のタッチ感

鍵盤を弾くとアクションがはたらき、ハンマーが動くアコースティックピアノと同様の機構により、アップライトピアノに極めて近いタッチ感を実現しました。

「CFXサンプリング」搭載

CFXサンプリングは、ヤマハ最高峰のフルコンサートグランドピアノ「CFX」から最高の1台を選び、最新の技術でサンプリングしたピアノ音色です。重厚な低音と中高音域の輝かしい響きが原音に忠実に再現され、自然なピアノ音色に仕上がっています。

調律なしでベストコンディション

ハイブリッドピアノは、アコースティックピアノとは異なり、調律の必要がありません。長期間のご使用に関わらず、いつでも最良の音で演奏することができます。

音量調節が自由自在

演奏する時間や状況に合わせて、音の大小を自由に調節できます。また、ヘッドフォンを使用すれば、周囲のかたに気がねなく演奏できます。

オーディオファイルの録音/再生機能を搭載

USBフラッシュメモリーに入っているオーディオファイル(.wav)を楽器で再生できます。また、ご自分の演奏をオーディオファイル(.wav)としてUSBフラッシュメモリーに録音することができるので、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送し、演奏を聞くことができます。

目次

安全上のご注意	4
---------	---

基本編

簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょう。

各部の名前	8
-------	---

音を出してみましょう	9
------------	---

ペダルを使う	11
ヘッドフォン(別売)を使う	12
I. A.コントロール(インテリジェント アコースティック コントロール)	12

応用編

演奏を録音するなど、楽器を便利に使いこなすための機能を説明しています。

楽器を使いこなす	13
----------	----

音色を選ぶ	13
音色デモ曲を聞く	13
メトロノームを使う	14
タッチ感度を変える	15
音に残響を付ける(リバーブ)	15
キー(調)を変える(トランスポーズ)	16
音の高さを微調整する(チューニング)	16
音律(調律法)を設定する	17

曲(ソング)を再生する	18
-------------	----

この楽器で再生できるソング	18
ソングを再生する	19

演奏を録音する	21
---------	----

USBフラッシュメモリーを使う	23
-----------------	----

USBフラッシュメモリーを接続する	23
USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する	24
楽器に録音したユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーする	24
ソングを削除する	25

バックアップデータと楽器の初期化	26
------------------	----

バックアップデータ	26
-----------	----

楽器の初期化(イニシャライズ)	26
-----------------	----

他の機器と接続する	27
-----------	----

MIDIミディについて	29
-------------	----

外部MIDI機器との接続例	29
---------------	----

ローカルコントロールオン/オフ	29
-----------------	----

資料

メッセージ一覧などの資料やクイックオペレーションガイドを掲載しています。

メッセージ一覧	30
---------	----

困ったときは	31
--------	----

楽器のお手入れ	32
---------	----

仕様	33
----	----

索引	34
----	----

クイックオペレーションガイド*	35
-----------------	----

保証とアフターサービス	36
-------------	----

* 鍵盤を使って操作する機能を一覧できます。

付属品(お確かめください)

保証書

取扱説明書(本書)

ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)

電源コード

キーカバー

フェルトセット

高低自在イス

ユーザー登録のご案内*

* ユーザー登録の際に記載されているプロダクトID (PRODUCT ID)が必要です。

■ 電子マニュアル(PDF形式)

この楽器には、この取扱説明書のほかに以下の電子マニュアルが用意されています。



MIDIリファレンス

この楽器のMIDIに関する資料(「MIDIデータフォーマット」、「MIDIインプリメンテーションチャート」)が掲載されています。



MIDI入門

MIDIについての基礎知識や使い方を説明しています。



コンピューターとつなぐ

楽器をコンピューターとつないで活用する方法を説明しています。

上記の電子マニュアルは、インターネット上のヤマハマニュアルライブラリーからご覧いただけます。

インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「NU1」や「MIDI入門」など)を入力して「検索」ボタンをクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/manual/>

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

 	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
  	～しないでくださいという「禁止」を示します。
  	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



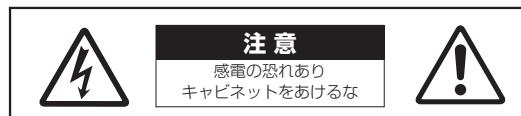
この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

⚠ 警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。

ほかの電源コード / プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

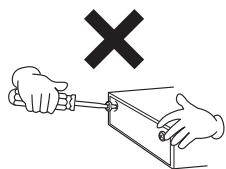
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



⚠ 注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード / プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なにおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

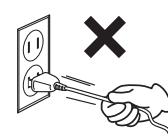
そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



設置



不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

必ず実行

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

必ず実行

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



この製品を電源コンセントの近くに設置する。

必ず実行

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



部屋の換気を十分に行なう。

必ず実行

製品に使用している木製部材は、環境・人体への影響を配慮していますが、塗料や接着剤などの影響により、まれに異臭を感じたり、目がしみたりする場合があります。

このような事態を避けるため、以下の点にご注意ください。

1. 本製品は、輸送時の品質維持を目的として気密性の高い梱包をしています。
開梱設置後の数日間は、楽器を設置した部屋の換気を徹底してください。
2. 日常から十分に換気を行なってください。部屋が小さい場合は、特にご注意ください。
3. 高温下で長時間部屋を閉め切っていた場合は、換気を行ない、室温を下げてからご使用ください。

接続



すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。
感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



鍵盤蓋や本体のすき間に手や指を入れない。また、鍵盤蓋で指などをはさまないように注意する。

お客様がけがをするおそれがあります。



鍵盤蓋やパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



イス



不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様やほかの方々がけがをする原因になります。



イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。

イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。

背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- ・テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- ・本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- ・本体の表面に金属、陶器、その他硬い物を当てないでください。表面にひびが入ったり、はがれたりする原因になります。
- ・極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■ データの保存に関する注意

- ・本体に録音したソングデータは電源を切っても保持されますが、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリーに保存してください(23ページ)。
- ・保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリーにバックアップとして保存されることをおすすめします。

●データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

●不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ・ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどご配慮をお願いします。
- ・この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

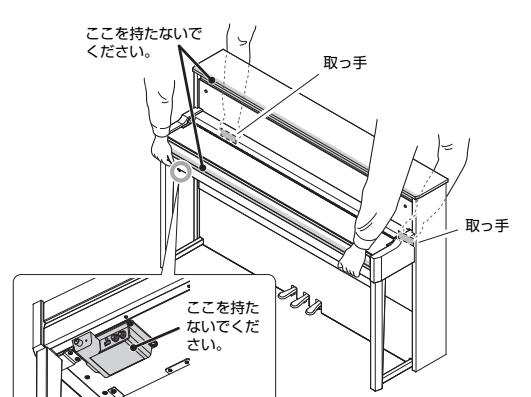
移動と設置

本体は、必ず水平にしてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。お引越しの際は、専門の業者にご依頼ください。

△ 注意

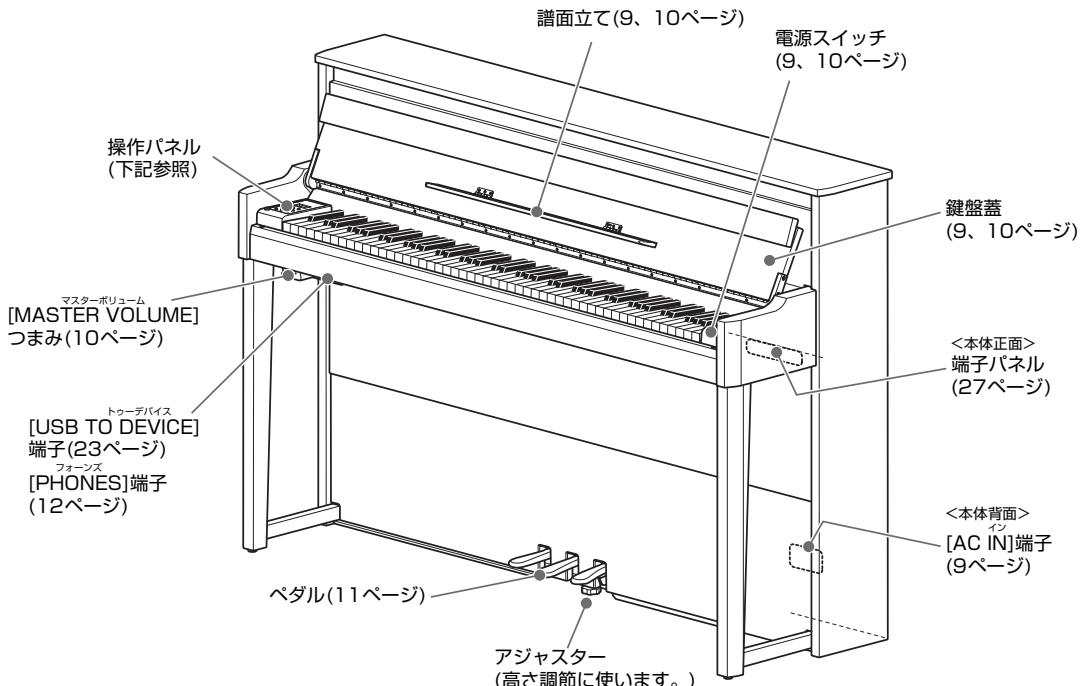
本体を移動するときは、必ず鍵盤の裏側と、背面の取っ手を持ってください。そのときヘッドフォン端子部分は持たないようご注意ください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

より良い音響をお楽しみいただくために、本体の背面を壁から10cm程度離して設置してください。また、設置後に本体がぐらつく場合は、付属のフェルトをご利用ください。詳しくはフェルトに付属の説明をご覧ください。

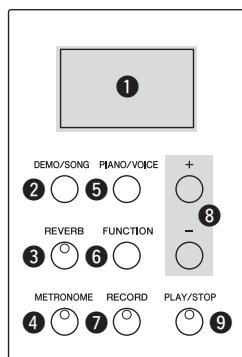


各部の名前

概観



操作パネル



- | | | |
|---------------------|-------|---------------|
| ① 画面 | | 下記参照 |
| ② [DEMO/SONG] ボタン | | 13ページ |
| ③ [REVERB] ボタン | | 15ページ |
| ④ [METRONOME] ボタン | | 14ページ |
| ⑤ [PIANO/VOICE] ボタン | | 13ページ |
| ⑥ [FUNCTION] ボタン | | 16, 17, 29ページ |
| ⑦ [RECORD] ボタン | | 22ページ |
| ⑧ [+]/[-] ボタン | | |
| ⑨ [PLAY/STOP] ボタン | | 19, 22ページ |

画面

ソング番号や各種設定値を表示します。画面の表示は設定が終わると消えます。



(ソング番号)



(各種設定値)

この画面は、英数字3文字で様々なメッセージも表示します。詳細は30ページをご参照ください。

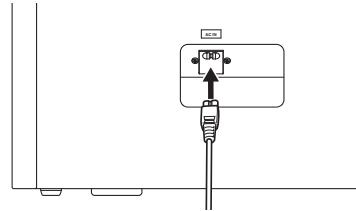
音を出してみましょう

1 電源コードを接続する

1-1 電源コードの本体側のプラグを[AC IN]端子に差し込みます。
[AC IN]端子の位置は「各部の名前」(8ページ)でご確認ください。

⚠️ 警告

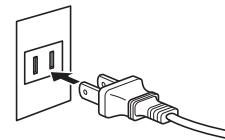
電源コードは必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。



1-2 コンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。

⚠️ 警告

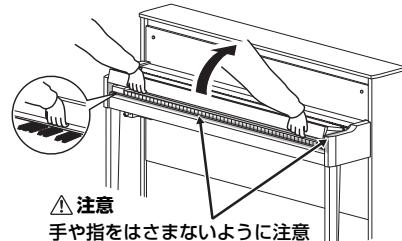
電源は必ずAC100Vを使用してください。



2 本体正面のくぼみに両手を掛け、鍵盤蓋を持ち上げて開ける

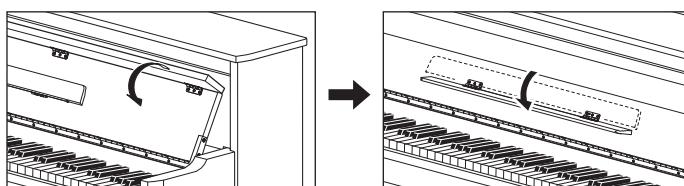
⚠️ 注意

鍵盤蓋を開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、鍵盤蓋の端と本体の間に手や指をはさまないようご注意ください。



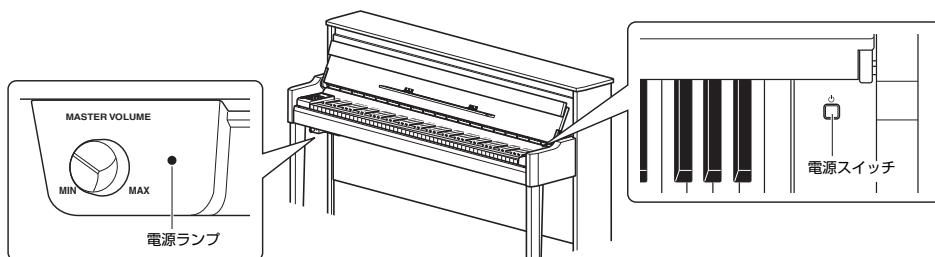
3 鍵盤蓋の上部を折りたたみ、譜面立てを開く

必要に応じて楽譜を譜面立てに乗せます。



4 鍵盤の右側にある[電源スイッチ]を押して、電源を入れる

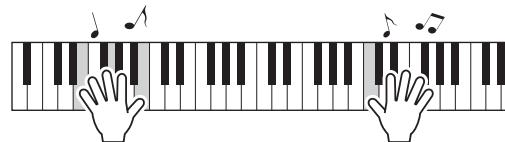
電源ランプが点灯し、鍵盤左側にある画面(8ページ)に「**♪♪♪**」の表示が現れます。表示が終わると楽器が起動します。



注記

電源を入れてから、楽器が完全に起動するまで(約4秒間)は、鍵盤を押さないでください。鍵盤の音が正常に出なくなることがあります。

5 鍵盤を弾く



音量を調節する

音量は、鍵盤の下の正面左側の[MASTER VOLUME]つまみ(8ページ)で調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



△ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

6 もう一度[△]電源スイッチを押して電源を切る

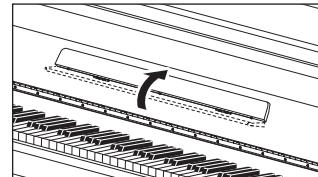
電源ランプが消灯します。

△ 注意

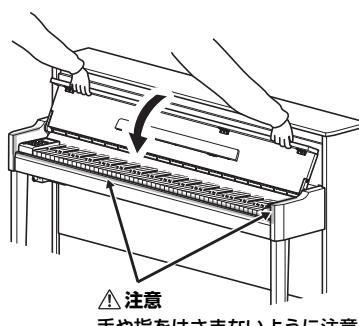
電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

7 譜面立てを閉じる

開いたままの状態で鍵盤蓋を閉めると、譜面立てが鍵盤とぶつかるので、必ず閉じましょう。

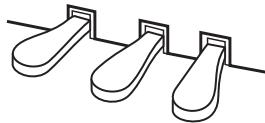


8 折りたたんである鍵盤蓋の上部を開き、両手を使って静かに鍵盤蓋を閉める



ペダルを使う

ペダルには、右のペダル(ダンパー・ペダル)とまん中のペダル(ソステヌート・ペダル)、左のペダル(ソフト・ペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。



右のペダル(ダンパー・ペダル)

このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音を長く響かせることができます。ペダルを踏むのをやめると、すぐに持続している音は止まります。この楽器のダンパー・ペダルはハーフペダルに対応しており、どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)を設定できます。

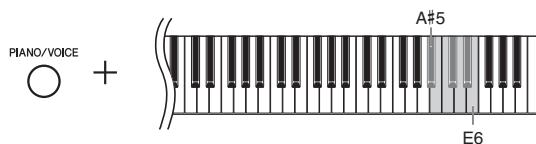
●ハーフペダル機能

ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。

●ハーフペダルポイントの設定

どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)を、設定します。

[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、A#5～E6の鍵盤のどれかを押します。ハーフペダルの効果は、数値(-2～0～4)が小さいほど浅い踏み込み位置でかかり、数値が大きいほど深い踏み込み位置でかかります。



設定範囲：A#5 (-2)～C6 (0)～E6 (4)

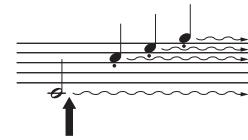
初期設定：0

GPレスポンスダンパー・ペダル

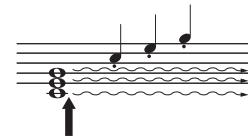
この楽器のダンパー・ペダルは、ペダルを踏んだときの感覚をよりグランドピアノに近づけたGPレスポンスダンパー・ペダルです。ハーフペダルのポイントを体感しやすく、ハーフペダル効果をかけやすいのが特長です。

まん中のペダル(ソステヌート・ペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます(ダンパー・ペダルが踏まれたかのように)。ただしペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。たとえば他の音をスタッカートで弾いているときに和音を長く響かせることができます。



ここでダンパー・ペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

左のペダル(ソフト・ペダル)

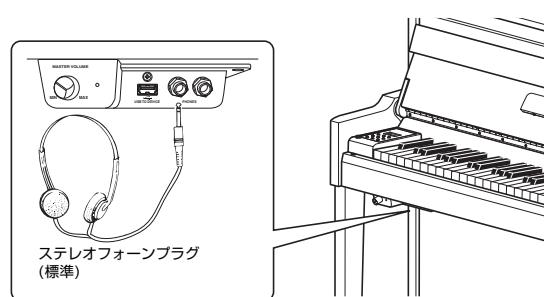
このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます)。

ヘッドフォン(別売)を使う

ヘッドフォンを使う場合は、楽器本体底面の左側にある
[PHONES]端子に接続します。ヘッドフォンを接続すると
自動的にスピーカーから音が出なくなります。
[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本
接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

△ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚
障害の原因になります。



I. A. コントロール(インテリジェント アコースティック コントロール)

I. A. コントロール(Intelligent Acoustic Control)とは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。I. A. コントロールは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

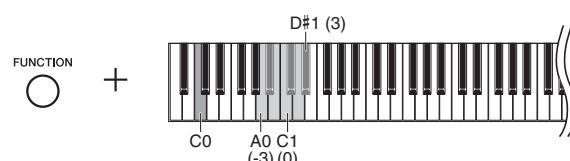
● I. A. コントロールのオン/オフ設定

FUNCTION ボタンを押したまま、C0鍵盤を押すごとにオン/オフが切り替わります。

初期設定：オン

● I. A. コントロールのかかり具合の調整

FUNCTION ボタンを押したまま、A0～D#1鍵盤のどれかを押して補正のかかり具合を調整します。



設定範囲：-3 (A0) ~ 0 (C1) ~ 3 (D#1)

初期設定：0 (C1)

I. A. コントロールのかかり具合の値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。

楽器を使いこなす

音色を選ぶ

●グランドピアノ1の音色を選ぶ

[PIANO/VOICE]ボタンを押して離すとグランドピアノ1が選ばれます。

●他の音色を選ぶ

[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押すと音色が切り替わります。

音色リスト

画面	音色名	音色紹介
1	グランドピアノ1	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
2	グランドピアノ2	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
3	エレクトリックピアノ1	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
4	エレクトリックピアノ2	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
5	ハープシコード	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。

音色デモ曲を聞く

この楽器には、すべての音色にふさわしいデモ曲が1曲ずつ入っています。聞いてみましょう。

1 デモ曲を聞いてみたい音色を選ぶ

2 [DEMO/SONG] ボタンを押す

手順1で選んだ音色のデモ曲がスタートします。

再生中のデモ曲の切替

[+]または[-]ボタンを押します。

テンポの調整

デモ曲再生中に、[METRONOME]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押します。

3 もう一度[DEMO/SONG] ボタンを押して再生をストップする

デモ曲リスト

画面	音色名	曲名	作曲者
d01	グランドピアノ1	プレリュード（ベルガマスク組曲より）	C. A. ドビュッシー
d02	グランドピアノ2	—	—
d03	エレクトリックピアノ1	—	—
d04	エレクトリックピアノ2	—	—
d05	ハープシコード	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J. S. バッハ

d01、d05の曲は、原曲から抜粋して編集されています。その他のデモ曲は、ヤマハのオリジナル曲です。©2012 Yamaha Corporation)

NOTE

デモ曲はMIDI送信されません。

NOTE

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)機能を備えています。

1 [METRONOME] ボタンを押してメトロノームを鳴らす

メトロノームが鳴っている間、LED画面に表示されている右端の点とメトロノームボタンがテンポに合わせて点滅します。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

2 [METRONOME] ボタンを押してメトロノームを止める

テンポの調節

画面で数値を確認しながら、下記操作をやってみましょう。

●テンポを1ずつ上げる/下げる

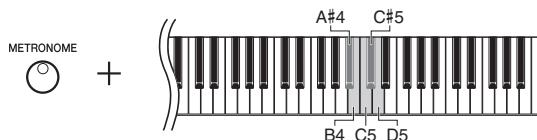
[METRONOME]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押します。または、[METRONOME]ボタンを押したまま、C#5またはB4鍵盤を押します。メトロノームが鳴っているときは、[+]または[-]ボタンを押します。

●テンポを10ずつ上げる/下げる

[METRONOME]ボタンを押したまま、D5またはA#4鍵盤を押します。

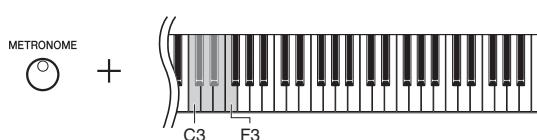
●テンポを初期設定に戻す

[METRONOME]ボタンを押したまま、C5鍵盤、または[+]と[-]ボタンを同時に押します。メトロノームが鳴っているときは、[+]と[-]ボタンを同時に押します。



拍子の設定

[METRONOME]ボタンを押したまま、C3～F3鍵盤のどれかを押します。この間、画面にはメトロノームの拍子が表示されます。

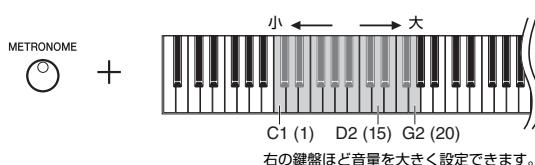


画面	鍵盤	拍子	画面	鍵盤	拍子
0	C3	拍子なし	4	D#3	4
2	C#3	2	5	E3	5
3	D3	3	6	F3	6

最初の拍で「チーン」と鳴り、その他の拍では「カチカチ」と鳴ります。たとえば3に設定すると「チーンカチカチ」と鳴ります。拍子なしの場合は、すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。

メトロノームの音量の調節

[METRONOME]ボタンを押したまま、C1～G2鍵盤のどれかを押して音量を設定します。この間、画面にはメトロノームの音量が表示されます。



設定範囲：5～500(1分間の拍数)

初期設定：120

NOTE

メトロノームのテンポは、電源を切ると初期設定に戻ります。

初期設定：拍子なし

NOTE

メトロノームの拍子は、電源を切ると初期設定に戻ります。

設定範囲：1～20

初期設定：15

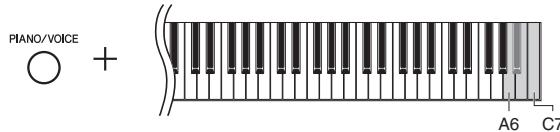
NOTE

メトロノーム音量の設定は、電源を切っても記憶されています。

タッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感度)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

[PIANO/VOICE]ボタンを押したまま、A6～C7の鍵盤を押してタッチ感度を設定します。この間、画面にはタッチの番号が表示されます。



画面	鍵盤	タッチ感度	説明
OFF	A6	フィックス	弱く弾いても強く弾いても鳴る音の強弱は変わりません。
1	A#6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。
2	B6	ミディアム	標準的なピアノタッチです。
3	C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。

初期設定：2(ミディアム)

NOTE

タッチ感度の設定は、電源を切ると初期設定に戻ります。

NOTE

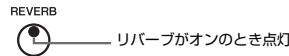
鍵盤自体の重さは変わりません。

音に残響を付ける(リバーブ)

グランドピアノの響きを再現した残響効果をかけることができます。また、そのかかり具合を変えることもできます。

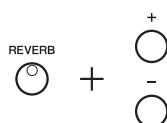
リバーブのオン/オフの切り替え

[REVERB]ボタンを押して、リバーブのオン/オフを切り替えます。



リバーブのかかり具合の調整

[REVERB]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押して、リバーブのかかり具合を設定します。この間、画面にはリバーブのかかり具合が表示されます。



[REVERB]ボタンを押したまま、[+]と[-]ボタンを同時に押すと、初期設定(2)に戻ります。

設定範囲：1～20
初期設定：2

NOTE

リバーブのかかり具合は、電源を切ると初期設定に戻ります。

NOTE

[REVERB]ボタンを押している間は、リバーブの設定値が表示されます。

キー(調)を変える(トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さに半音単位でキー(調)を合わせることができます。この機能をトランスポーズ(移調)といいます。

たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

●半音単位でキーを下げる

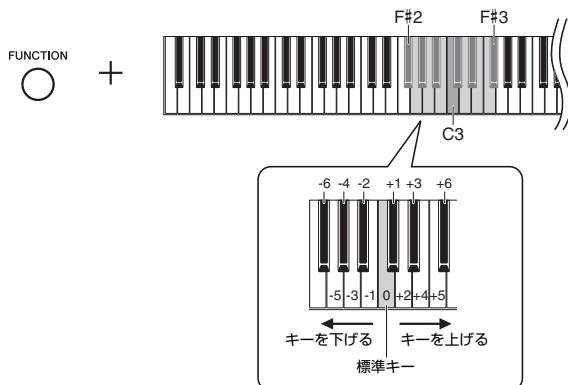
[FUNCTION]ボタンを押したまま、F#2(-6)～B2(-1)鍵盤を押します。

●半音単位でキーを上げる

[FUNCTION]ボタンを押したまま、C#3(+1)～F#3(+6)鍵盤を押します。

●元のキーに戻す

[FUNCTION]ボタンを押したまま、C3鍵盤を押します。



操作中は、画面には設定した値が表示されます。

初期設定: 0(標準キー)

設定範囲: -6～6

NOTE

トランスポーズ量は、電源を切ると初期設定に戻ります。

音の高さを微調整する(チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

操作中は、画面に音の高さ(Hz)が表示されます(100の位は表示されません)。

442.0

例: 442.0Hzの場合

●音の高さを上げる(約0.2Hz単位)

[FUNCTION]ボタンを押したまま[+]ボタンを押します。

●音の高さを下げる(約0.2Hz単位)

[FUNCTION]ボタンを押したまま[-]ボタンを押します。

●初期設定に戻す

[FUNCTION]ボタンを押したまま、[+]と[-]ボタンを同時に押します。

NOTE

チューニング値は、電源を切っても記憶されています。

Hzとは

音の高さを示す単位です(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです)。

設定範囲: 414.8～466.8Hz

(=A3)

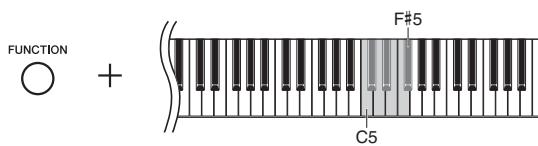
初期設定: 440.0Hz (=A3)

音律(調律法)を設定する

音律(調律法)を選ぶ機能です。現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

音律の選択

FUNCTIONボタンを押したままC5～F#5鍵盤のどれかを押します。この間、画面には音律番号が表示されます。



初期設定：1 (平均律)

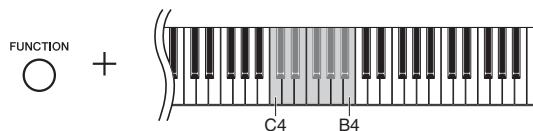
NOTE

音律は、電源を切ると初期設定に戻ります。

画面	鍵盤	音律	説明
1	C5	平均律	1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーな、ピアノの調律法です。
2	C#5	純正律 長調	自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどにみられます。
3	D5	純正律 短調	
4	D#5	ピタゴラス音律	ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた、5度音程だけの組み合わせからきた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。
5	E5	中全音律	ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律です。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。
6	F5	ヴエルクマイスター音律	中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、それぞれの組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の曲をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにしばしば用いられます。
7	F#5	キルンベルガー音律	

音律の基準となる音(ベース音)の選択

FUNCTIONボタンを押したまま、C4～B4鍵盤のどれかを押して音律を設定します。この間、画面にはベース音が表示されます。



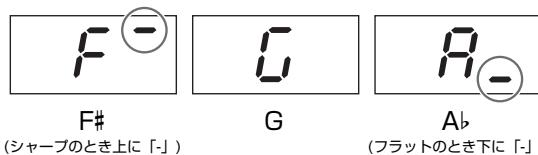
初期設定：C

NOTE

ベース音は、電源を切ると初期設定に戻ります。

鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音	鍵盤	ベース音
C4	C	D#4	E♭	F#4	F#	A4	A
C#4	C#	E4	E	G4	G	A#4	B♭
D4	D	F4	F	G#4	A♭	B4	B

表示例



曲(ソング)を再生する

この楽器では、楽器に内蔵されているソングや、[USB TO DEVICE]端子に接続したUSBフラッシュメモリーに保存されるソングを再生できます。この楽器で再生できるソングには、MIDIソングとオーディオソングの2種類があります。

MIDIソングとオーディオソング

MIDIソングは、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、(電子ピアノなどの)音源部が鳴ることで初めて音になります。データ容量が小さく、また、音色の変更などの編集がしやすいのが特長です。

オーディオソングは、演奏した音そのものを記録したデータです。カセットテープやボイスレコーダーなどに録音するのと同じくして記録したものです。携帯音楽プレーヤーなどでも再生できるので、ほかの人に自分の演奏を聞いてもらうことが手軽にできます。

この楽器で再生できるソング

ソングカテゴリーリスト

ソング カテゴリー	ソング番号	説明
<i>d</i> .XX	音色デモ曲 (MIDIソング)	<i>d01</i> ～ <i>d05</i> この楽器に内蔵されている音色デモ曲です(13ページ)。
<i>P</i> .XX	プリセットソング (MIDIソング)	<i>P01</i> ～ <i>P50</i> この楽器に内蔵されているピアノソング50曲です。付属の「ピアノで弾く名曲50選」に楽譜が掲載されていますのでご活用ください。
<i>R</i> .XX*	USBフラッシュメモリーに保存したオーディオソング	<i>R00</i> ～ <i>R99</i> この楽器で録音したユーザーソングです(24ページ)。 <i>R00</i> ～ <i>R99</i> ** 市販のオーディオソングやコンピューターで編集した外部ソングです。
<i>S</i> .XX*	USBフラッシュメモリーに保存したMIDIソング	<i>S00</i> ～ <i>S99</i> この楽器で録音したユーザーソングです(24ページ)。 <i>S00</i> ～ <i>S99</i> ** 市販のMIDIソングやコンピューターで編集した外部ソングです。
<i>U</i> .XX	楽器本体に保存したMIDIソング	<i>U01</i> ～ <i>U10</i> この楽器本体に録音したユーザーソングです(21ページ)。 <i>U00</i> ～ <i>U99</i> ** 市販のMIDIソングやコンピューターで編集したMIDIソングを、コンピューターからこの楽器本体へ転送した外部ソングです。

* USBフラッシュメモリーを接続しているときのみ画面に表示されます。

** 対象データがない場合は表示されません。

ユーザーソングと外部ソング

この楽器で録音したソングを「ユーザーソング」といいます。この楽器以外で作られたソングを「外部ソング」といいます。

USBフラッシュメモリーでは、「USER FILES」フォルダー内のソングは、ユーザーソングとして扱われます。「USER FILES」フォルダー以外にあるソングは、外部ソングとして扱われます。この楽器でUSBフラッシュメモリーにソングを録音すると、「USER FILES」フォルダーが自動的に作成され、このフォルダーにユーザーソングが保存されます。

NOTE

XXは数字を表します。

この楽器で再生できるソングのデータ形式

●SMF(Standard MIDI File)フォーマット0と1

MIDIソングの代表的なフォーマットです。この楽器で録音したMIDIソングはSMFフォーマット0で保存されます。

●WAVフォーマット(.wav)

一般にコンピューターで使われるオーディオ(音声)データの記録方式のひとつです。この楽器では、44.1kHz、16bitのステレオWAVファイルが再生できます。この楽器で録音したオーディオソングはこの形式で保存されます。

ソングを再生する

USBフラッシュメモリーに入っているソングを再生したい場合は、「USBフラッシュメモリーを接続する」(23ページ)を読み、USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続してから下記手順に従ってください。

1 [DEMO/SONG] ボタンを押したまま[+]または[−]ボタンを押して、ソングカテゴリー(18ページ)を選ぶ

画面には、P.xx→(R.xx)→(S.xx)→U.xx→d.xx→P.xx→の順に表示されます。

C.xx、F.xx、L.xxのソングを再生したい場合は、それぞれR.xx、S.xx、U.xxのカテゴリーを選んでください。

2 [+]または[−]ボタンを押して、ソング番号または「*rd」(ランダム)、「*RL」(オール)を選ぶ

C.xx、F.xx、L.xxを表示するには、[+]ボタンを長押しするか、[−]ボタンを数回押してください。

C.xxはR.99の次に、F.xxはS.99の次に、L.xxはU.10の次に表示されます(データがない場合は表示されません)。

●特定のソング番号(P.01やU.01など)を選んだ場合

選択された曲のみが再生されます。

●「*rd」(ランダム)または「*RL」(オール)を選んだ場合

「*rd」.....選んだソングカテゴリー内のソングを順不動に連続再生します。

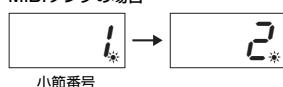
「*RL」.....選んだソングカテゴリー内のソングをすべて順番に連続再生します。

*はP、R、S、Uのいずれかです。詳しくは18ページをご覧ください。

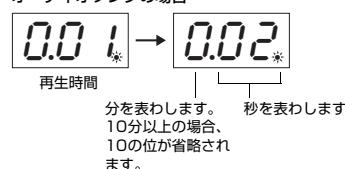
3 [PLAY/STOP] ボタンを押して再生をスタートさせる

スタート後、画面に再生中の小節番号(MIDIソングの場合)または再生時間(オーディオソングの場合)が表示されます。

MIDIソングの場合



オーディオソングの場合

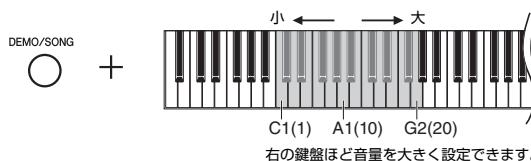


テンポの調節(MIDIソングのみ)

[METRONOME]ボタンを押したまま[+]または[−]ボタンを押してテンポを変更します。テンポを元に戻す場合は、[METRONOME]ボタンを押したまま[+]と[−]ボタンを同時に押します。詳しくは14ページをご覧ください。

音量の調節(オーディオソングのみ)

本体以外で録音したオーディオソングや市販のオーディオソングの音量は、鍵盤演奏の音量とバランスが合わない場合があります。その場合は、[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、C1～G2鍵盤のどれかを押すことで、ソングの音量を調節しましょう。



巻き戻し/早送り

再生中に、[−]/[+]ボタンを押すと、ボタンを押している間、巻き戻し/早送りします。

曲の先頭に戻る

再生中に、[+]と[−]ボタンを同時に押すと、曲の先頭に戻ります。

NOTE

ソングカテゴリーRxxとSxxは、USBフラッシュメモリーを接続しているときのみ画面に表示されます。

NOTE

USBフラッシュメモリー内のソングを選択とき、保存されているフォルダ数によっては、画面が表示されるまで時間がかかる場合があります。

NOTE

メトロノームを鳴らしながら再生することもできます。再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

NOTE

この楽器に入っていない音色を含むMIDIソング(XGやGMソングなど)を再生すると、本来の音色が再現されません。また、この楽器の音源で扱えるMIDIチャンネルは1～2だけなので、3～16チャンネルの演奏データは鳴りません。したがって、MIDI1～2チャンネルにピアノ演奏が割り当てられたソングを再生することをおすすめします。

NOTE

再生しながら演奏することもできます。手弾き音の音色も変えられます。

設定範囲：1～20

初期設定：16

4 もう一度[PLAY/STOP]ボタンを押して再生をストップする

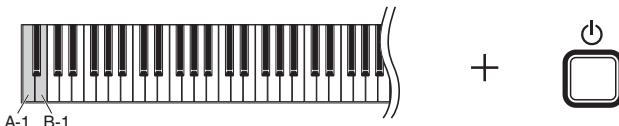
手順2で特定のソング番号を指定した場合は、1曲の再生が終了と同時にストップします。

文字種の設定

この楽器で曲が読み込めない場合は、ファイル名やフォルダ名の文字種に問題があることがあります。下記の2つの文字種から選択して設定してください。

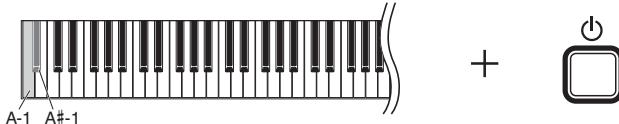
● 日本語

日本語やアルファベットを読み込めます(ウムラウトは読み込めません)。
A-1の鍵盤とB-1の鍵盤を押したまま、電源を入れます。



● インターナショナル

アルファベットやウムラウトを読み込めます(日本語は読み込めません)。
A-1の鍵盤とA#-1の鍵盤を押したまま、電源を入れます。



設定範囲：JA (日本語)/ Int (インターナショナル)

初期設定：JA (日本語)

演奏を録音する

自分の演奏を、下記いずれかの方法で録音してみましょう。録音した演奏はユーザーソング(18ページ)として保存されるので、再生させて聞いてみましょう。

● MIDI録音

録音した演奏をSMF(フォーマット0)のMIDIソングとして、楽器本体またはUSBフラッシュメモリーに保存します。この楽器には、10曲まで録音できます。

●オーディオ録音

録音した演奏をオーディオソングとしてUSBフラッシュメモリーに保存します。一般的なCD音質のステレオWAV形式で保存されるので、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。録音可能時間はUSBフラッシュメモリーの容量によって異なります。

USBフラッシュメモリーが必要な場合

MIDIソングの録音先は、楽器本体またはUSBフラッシュメモリーで、オーディオソングの録音先は、USBフラッシュメモリーのみです。必要に応じて、USBフラッシュメモリーを準備し、「USBフラッシュメモリーを接続する」(23ページ)をお読みの上、下記手順に従ってください。

1 必要に応じて、USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子へ接続する

2 録音方法を選ぶ

●MIDI録音したい場合

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、画面に「U**」(内部メモリーに保存)または「S**」(USBフラッシュメモリーに保存)が表示されるまで、[+]または[-]ボタンを押します。

●オーディオ録音したい場合

[DEMO/SONG]ボタンを押したまま、画面に「R**」(USBフラッシュメモリーに保存)が表示されるまで[+]または[-]ボタンを押します。

3 [+]または[-]ボタンを押して、ソング番号を選ぶ

- U01～U10 この楽器の内部メモリー内のユーザーソング(MIDI)
- S00～S99 USBフラッシュメモリー内のユーザーソング(MIDI)
- R00～R99 USBフラッシュメモリー内のユーザーソング(オーディオ)

●選んだソングに録音データがある場合

選んだソングに既に録音データがあるかどうか、画面表示で確認できます。

録音データがある場合



3つの点が点灯

録音データがない場合



左端の1点のみ点灯

注記

すでにデータのあるソングに録音すると、それまで録音されていたデータは消えますのでご注意ください。

4 録音に使う音色(13ページ)や、拍子(14ページ)、リバーブ(15ページ)などを設定する

NOTE

以下の状態のときは、録音できません。

- ソング再生中(18ページ)
- ファイル操作中(23ページ)

録音できないソングが選ばれた状態で手順1～4をしなかった場合

[RECORD]ボタンを押すと、データの入っていない(空の)最も小さいソング番号が、録音対象として自動的に選ばれます。

- 「U**」が選ばれていたときは、「R**」が録音対象になります。
- 「F**」「L**」「P**」「d**」が選ばれていたときは、「U**」が録音対象になります。
- 空のユーザーソングが無いときは、「U01」が録音対象になります。

メトロノームを使う

メトロノームを使いながら録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。

5 [RECORD]ボタンを押して録音モードに入る

[RECORD]のランプが点灯します。また、[PLAY/STOP]のランプがテンポに合わせて点滅します。

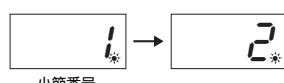


録音を中止する場合は、もう一度[RECORD]ボタンを押します。

6 録音をスタートする

●MIDI録音の場合

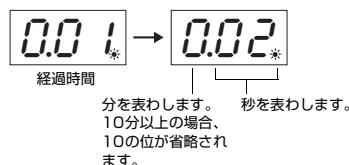
鍵盤を弾く、または[PLAY/STOP]ボタンを押して録音をスタートさせます。録音中、画面には小節番号が表示されます。



●オーディオ録音の場合

[PLAY/STOP]ボタンを押して録音をスタートさせます。

録音中、画面には録音の経過時間が表示されます。



空き容量が少ない場合

本体内部メモリーやUSBフラッシュメモリーの空き容量が少ない場合は、[RECORD]ボタンを押したあとに「End」と表示されます。この場合、録音はスタートできますが、録音途中で記憶容量がいっぱいになるおそれがあります。あらかじめ不要なファイルを削除(25ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。

NOTE

オーディオ録音の場合、AUX IN端子からの入力音も録音されます。

7 [PLAY/STOP]または[RECORD]ボタンを押して録音をストップする

録音をストップすると、「-」が流れて表示され保存中であることを示します。保存が終わると、「End」が表示されたあと、ソング番号が表示され、録音モードは自動的に解除されます。

注記

「-」が流れているときに、電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。外部ソングを含むすべてのソングデータ(18ページ)が消去されるおそれがあります。

8 [PLAY/STOP]ボタンを押して、録音した演奏を再生する

再生をストップするには、もう一度[PLAY/STOP]ボタンを押します。

ソングを削除する

録音したソングを削除する場合は、25ページをご覧ください。

USBフラッシュメモリーを使う

この楽器では、以下のように、ソングファイルの操作ができます。

- USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する
- 楽器に録音したソングをUSBフラッシュメモリーにコピーする
- 楽器またはUSBフラッシュメモリー内のソングを削除する

NOTE
以下の状態のときは、ファイル操作はできません。
・ソング再生中(18ページ)
・録音中(21ページ)

USBフラッシュメモリーを接続する

[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意

本機には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、お使いのUSBフラッシュメモリーの取扱説明書もご参照ください。

■使用できるUSBフラッシュメモリー

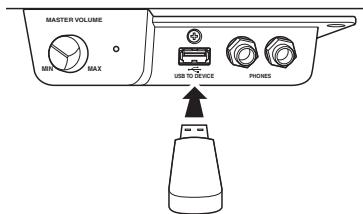
動作確認済みUSBフラッシュメモリーについては、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/usb/>

NOTE

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

■USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- USBケーブルで接続する場合、3メートル以下のケーブルをご使用ください。
- 本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相當になりますので、ご了承ください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1個だけです。

■USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーの中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なものがあります。[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください(24ページ)。

注記

フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用の前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■USBフラッシュメモリーの抜き差し

USBフラッシュメモリーを外すときは、保存/コピー/削除/フォーマットなどデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。

注記

USBフラッシュメモリーの頻繁な電源のオン/オフや抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。保存/コピー/削除/読み込み/フォーマットなどデータのアクセス中やUSBフラッシュメモリーのマウント中は、USBケーブルを抜いたり、USBフラッシュメモリーを抜いたり、双方の電源を切ったりしないでください。USBフラッシュメモリーが壊れたり、楽器本体/USBフラッシュメモリーのデータが壊れたりするおそれがあります。

USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)する

注記

フォーマットを実行するとUSBフラッシュメモリーに保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、ほかの記憶装置に保存しておいてください。

1 [USB TO DEVICE] 端子にUSBフラッシュメモリーを接続する

2 [FUNCTION] ボタンと [PLAY/STOP] ボタンを押したまま [RECORD] ボタンを押す

「For」が表示されたあと、「n y」(no/yes)が表示されます。
この操作をキャンセルする場合は、[–]ボタンを押します。

3 [+]ボタンを押してフォーマットを実行する

画面に「-」が流れ、フォーマットの実行中を示します。
フォーマットが終わると、「End」が表示されます。

注記

「-」が流れているときは、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを取り外したりしないでください。

NOTE

ソング録音(22ページ)やコピー(下記)、削除(25ページ)を実行しようとすると、画面に「UnF」(USBフラッシュメモリーが未フォーマット)が表示されることがあります。その場合は、左記手順2から、フォーマット操作を進めてください。

楽器に録音したユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーする

この楽器に保存されているユーザーソングをUSBフラッシュメモリーにコピーします。コピーしたソングは、USBフラッシュメモリー内の「USER FILES」フォルダーにユーザーソングとして保存され、自動的に「USERSONG**.MID」(**は数字)というファイル名が付けられます。

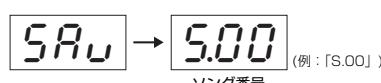
1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続する

2 コピーしたい楽器内のユーザーソングを選ぶ

詳しくは、18ページをご覧ください。

3 [FUNCTION] ボタンを押したまま [PLAY/STOP] ボタンを押す

画面に「SAU」が表示されたあと、コピー先となる空いているユーザーソング内で最も小さいソング番号(例:「5.00」)が表示されます。



コピー操作をキャンセルするには、この間に[PLAY/STOP]ボタン以外のボタンを押します。

4 [PLAY/STOP] ボタンを押して、コピー操作を実行する

画面に「-」が流れ、コピーの実行中を示します。
コピーが終わると、「End」が表示されます。

注記

「-」が流れているときは、電源を切ったりUSBフラッシュメモリーを取り外したりしないでください。

NOTE

手順2でユーザーソングを選ばなかった場合、手順3の操作で「End」が表示され、コピーは実行されません。このような場合、手順2に戻ってユーザーソングを選びましょう。

USBフラッシュメモリーの空き容量が不十分な場合

コピーしたソングを保存できません。不要なファイルを削除(25ページ)するなどして、空き容量を確保してください。

ソングを削除する

ユーザーソングを削除できます。

1 必要に応じて、USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子へ接続する

2 削除するソングを選ぶ

ソングの選択方法は、19ページをご覧ください。

3 [FUNCTION]ボタンを押したまま [RECORD]ボタンを押す

「dElete」が表示されたあと、「n o」(no/yes)が表示されます。

ソングの削除をキャンセルする場合は、[−]ボタンを押します。

4 [+]ボタンを押して削除操作を実行する

画面に「-」が流れ、削除の実行中を示します。削除が終わると、「End」が表示されます。

注記

「-」が流れているときは、電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを取り外したりしないでください。

トゥーデバイス

NOTE

手順3を実行するとソング再生ができなくなります。削除したいソングの確認再生は、手順3へ進む前に済ませてください。

NOTE

コンピューターを使って楽器に保存した外部ソングは、この方法では削除できません。コンピューターを使って削除してください。

バックアップデータと楽器の初期化

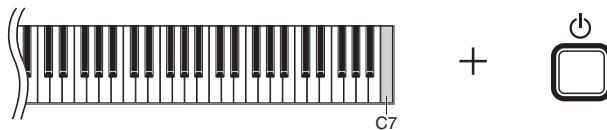
バックアップデータ

下記のデータは、楽器の内部メモリーに自動的に保存されます。これをバックアップデータといいます。バックアップデータと、内部メモリーに保存されたユーザーソングや外部ソングは、電源を切っても記憶されています。

- ・ 文字種 20ページ
- ・ チューニング 16ページ
- ・ I.A.コントロール オン／オフ 12ページ
- ・ I.A.コントロールのかかり具合 12ページ
- ・ ハーフペダルポイント 11ページ
- ・ メトロノームのボリューム 14ページ
- ・ オーディオソングの再生ボリューム 19ページ
- ・ AUX INノイズゲートオン／オフ 28ページ

楽器の初期化(イニシャライズ)

右端の白鍵(C7)を押したまま電源スイッチを押して電源を入れます。この操作をすると、本体に記憶されているバックアップデータ(文字種の設定を除く)が消去され、初期設定に戻ります。本体メモリーに保存したユーザーソングや外部ソングは消去されません。



「CLR」が表示され、初期化が実行されている表示をします。

注記

初期化実行中(「CLR」表示中)は電源を切らないでください。

NOTE

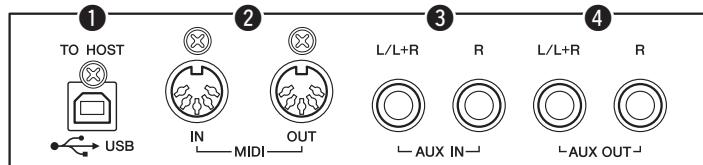
この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、いったん電源を切り、初期化を行なってください。

他の機器と接続する

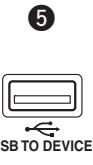
△ 注意

外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。

端子パネル



端子パネルの位置については、8ページの「各部の名前」をご覧ください。



(鍵盤下の正面左側)

トゥーホスト

① USB [TO HOST] 端子

USBケーブルを使ってこの楽器のUSB [TO HOST] 端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとソングファイルをやりとりしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。

詳しくは電子マニュアル「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

NOTE

USBケーブルは、ABタイプのものをご使用ください。また、3メートル以下のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。

② MIDI [IN] [OUT] 端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。詳しくは29ページの「MIDIについて」をご覧ください。

③ AUX IN [L/L+R] [R] 端子

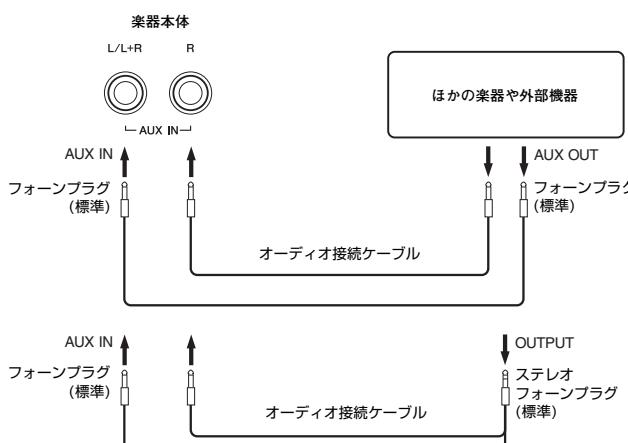
ほかの楽器や外部機器の音を楽器本体のスピーカーから出すことができます。

△ 注意

楽器本体のAUX INを使う場合、電源を入れるときは外部機器→楽器本体の順に、電源を切るときは楽器本体→外部機器の順に行なってください。

NOTE

モノラル入力には、AUX IN [L/L+R] 端子をご使用ください。

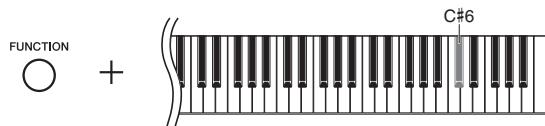


●入力音のノイズをカットする(ノイズゲート)

この楽器では、AUX IN インに入力した音に対し、余分なノイズをカットしています。

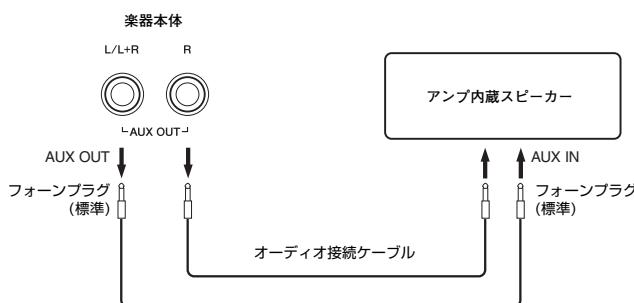
しかし、本来ノイズではないピアノの減衰音のような小さな音をノイズとみなしてカットしてしまうことがあります。このような場合は、ノイズゲートをオフに設定してください。

ファンクション
[FUNCTION] ボタンを押したままC#6鍵盤を押すたびに、ノイズゲートのオン/オフが切り替わります。



④ AUX OUT [L/L+R] [R] 端子

アンプ内蔵スピーカーなどを接続して、より大きな音を出すことができます。



△ 注意

AUX OUTに外部機器を接続した場合、電源を入れるときは楽器本体→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは外部オーディオ機器→楽器本体の順に行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。

注記

AUX OUTに外部機器を接続した場合、同時に接続先機器の出力端子と本機のAUX IN端子を接続しないでください。オーディオ信号のフィードバック(発振)が起こり、両機器の故障の原因となります。

⑤ [USB TO DEVICE] 端子

USBフラッシュメモリーを接続する端子です。詳しくは23ページの「USBフラッシュメモリーを接続する」をご覧ください。

初期設定：オン

NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

NOTE

モノラル出力には、AUX OUT [L/L+R] 端子をご使用ください。

ミディ MIDIについて

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器(電子楽器など)間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI機器間(またはMIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、電子楽器から外部MIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターから電子楽器をコントロールしたりできます。



NOTE

MIDI機器を接続するには、専用のMIDIケーブル(別売)をご用意ください。

NOTE

機種ごとに扱えるMIDIデータが同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータだけが送受信できます。共通に扱えるデータは、電子マニュアル「MIDIリファレンス」の「MIDIインプリメンテーションチャート」をご覧ください。

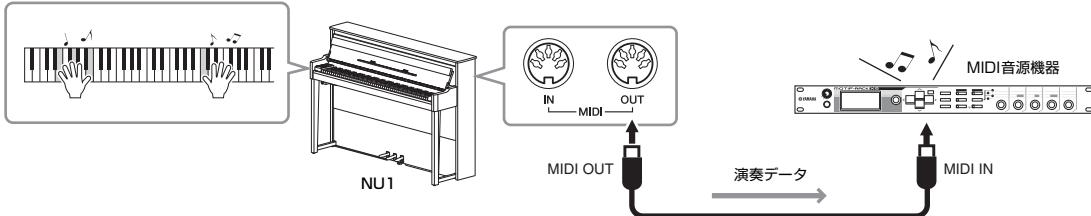
NOTE

この楽器から再生中のMIDIソングデータの送信は、3~16チャンネルのみです。

外部MIDI機器との接続例

例1)

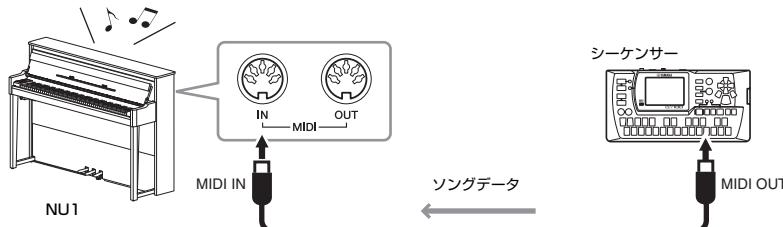
下記の接続で、この楽器の鍵盤を使って外部のMIDI音源を鳴らせます。



この楽器からの送信チャンネルは「1」なので、外部MIDI音源機器の受信チャンネルは「1」に設定します。

例2)

下記の接続で、シーケンサーで再生した曲を、この楽器の音色で鳴らせます。



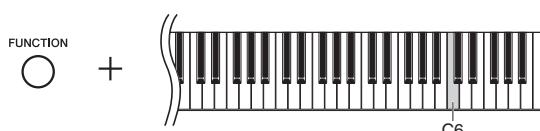
この楽器での受信チャンネルは、「1」と「2」のみです。したがって、受信するソングデータは、MIDI1~2チャンネルにピアノ演奏が割り当てられたソングデータをおすすめします。

ローカルコントロールオン/オフ

通常、この楽器で鍵盤を弾いたり、MIDIソングデータを再生したりすると、本体内部の音源から音が出ます。この状態を「ローカルコントロールオン」と呼びます。この楽器での演奏データを外部のMIDI機器へ送信して、楽器からは音を出さない場合は、「ローカルコントロールをオフ」にします。

■ローカルコントロールオン/オフを切り替えるには

FUNCTION ファンクションボタンを押したままC6鍵盤を押します。C6鍵盤を押すたびにローカルコントロールオン/オフが切り替わります。



メッセージ一覧

メッセージ	内容
<i>clr</i>	楽器を初期化しています。
<i>con</i>	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しています。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。
<i>E01</i>	文字種の設定(20ページ)が、選択しようとしているソングのファイル名に合っていません。文字種を切り替えてください。 この楽器では対応していないデータ形式です。または、データに問題があるため選択できません。
<i>E02</i>	USBフラッシュメモリーにプロテクトがかかるています。
<i>E03</i>	USBフラッシュメモリーのメモリーの空き容量が不足しています。またはファイルやフォルダーの数が制限を超みました。
<i>E04</i>	オーディオソングの再生/録音に失敗しました。録音や削除を繰り返し行なったUSBフラッシュメモリーをお使いの場合は、必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(24ページ)、楽器に接続してください。
<i>EE1</i>	本体に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
<i>EE2</i>	本体に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
<i>End</i>	処理が終わりました。
<i>End</i>	楽器本体またはUSBフラッシュメモリーのメモリーの空き容量が少なくなりました。録音を始める前に不要なファイルを削除(25ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。
<i>FUL</i>	本体内部メモリーに残容量がありません。 ファイルやフォルダーの数が制限を超みました。 USBフラッシュメモリーに残容量がありません。
<i>no</i>	操作を実行しますか？
<i>Pro</i>	プロテクトがかかるソングのため、データの削除や上書きはできません。
<i>UnF</i>	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーが接続されています。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください(24ページ)。
<i>Uoc</i>	USBフラッシュメモリーに過電流が流れたため、USBフラッシュメモリーとの通信を停止しました。 →USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
<i>UU1</i>	USBフラッシュメモリーにアクセスできません。 →USBフラッシュメモリーをいったん外してから、接続し直してください。それでもこのエラーメッセージが表示される場合は、別のUSBフラッシュメモリーをお使いください。
<i>UU2</i>	このUSBフラッシュメモリーは、この楽器では使えません。 →動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください。 接続できるUSBフラッシュメモリーの数が制限を超みました。 →「USBフラッシュメモリーの取り扱いについて」をお読みください(23ページ)。

* 処理中を表すメッセージ(---)は、「-」→「-」→「---」→「-」…と表示されます。

* メッセージを消すには、いずれかのボタンを押してください。

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
本体の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側とコンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(9ページ)。
本体のスピーカーから雑音が出る。	本体の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	本体の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。本体の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	音量が下がっています。	マスター・ボリューム [MASTER VOLUME] つまみを回して音量を上げてください(10ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください(12ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(29ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
音が出ない鍵盤がある。	鍵盤を押したまま電源を入れると、音が正常に出ないことがあります。	電源を入れ直してください(9ページ)。このとき鍵盤を触らないでください。
AUX IN端子から入力した音が途切れる。	AUX INに接続した機器の音量(出力レベル)が小さく、ノイズゲートで入力音がカットされるためです。	<ul style="list-style-type: none"> AUX INに接続した機器側の音量(出力レベル)を上げてください。楽器本体から出す音量の調節は、[MASTER VOLUME] つまみで行ってください。 ノイズゲートをオフに設定してください(28ページ)。
USBフラッシュメモリーがフリーズする。	USBフラッシュメモリーの動作が不安定になっています。	USBフラッシュメモリーをいったん外してから、接続し直してください。
	動作確認されていないUSBフラッシュメモリーです。	動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをご使用ください(23ページ)。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。
高速で連打をしたときやトリルなどの演奏時に、ごくまれに押鍵時の強さよりも大きな音が鳴る。	鍵盤とアクションの構造上、ごくまれに発生する場合があります。	故障ではありません。

* メッセージ一覧(30ページ)もご参照ください。

楽器のお手入れ

この楽器をいつまでもきれいに保つため、下記のお手入れを定期的に行なうことをおすすめします。

■ 本体やイスのお手入れ

乾いたガーゼのような柔らかい布や、水を固く絞った柔らかい布で拭いてください。

注記

ベンジンやシンナー、洗剤、化学そうきなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

本体にほこりや手あかが付いた場合は、乾いたガーゼのような柔らかい布で軽くふき取ってください。強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。つやを保つためには、ユニコンをピアノクロスに含ませてムラなく拭き、別の布で伸ばすように磨き上げます。ユニコンは楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■ 鍵盤のお手入れ

水をしみこませて固くしぼった柔らかい布で汚れを拭き取った後、乾いた布でカラ拭きします。白鍵の汚れがひどい時は、ピアノクリーナー(別売)の使用をおすすめします。この際、キークリーナーが黒鍵につかないようにご注意ください。また、使用後は、キークリーナーが鍵盤に残らないよう、乾いた布で拭きとってください。

■ イスの高さ調節

ハンドルを時計回りに回すと高くなります。(ご購入時には、ハンドルは固めに設定されています。)

イスのネジは、定期的に締め直してください。

■ ペダルのお手入れ

ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様、経年変化によって変色することがあります。

その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■ 調律

この楽器は調律の必要がありません。ただし、タッチに違和感を感じた場合には、お買い上げ店、または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

仕様

サイズ/質量	寸法	幅	1,501mm
		高さ	1,024mm
		奥行き	463mm
	質量	109kg	
操作子	鍵盤	鍵盤数	88(A-1~C7)
		鍵盤種(白鍵)	アクリペット ※「アクリペット」は、三菱レイヨン株式会社の登録商標です。
		鍵盤種(黒鍵)	フェノール
		タッチ感度	フィックス/ソフト/ミディアム/ハード
	ペダル	ペダル数	3
		ハーフペダル	○
		ペダル機能	ダンパー(ハーフペダル対応)、ソステヌート、ソフト
		GPLレスポンスタンバーペダル	○
	ディスプレイ	7セグメントLED	
	パネル言語	英語	
本体	鍵盤蓋	○	
	譜面立て	○	
音源/音色	音源	音源方式	CFXサンプリング
	ピアノ音源の効果	サステインサンプリング	○
		キーオフサンプリング	○
		ストリングレゾナンス	○
	発音数	最大同時発音数	256
効果	プリセット	音色数	5
	タイプ	リバーブ	○
録音/再生(MIDIソング)	録音	録音曲数	10
		トラック数	1
		データ容量(最大)	約1.5MB(約550KB/曲)
	再生	データ容量(最大)	約550KB/曲
	プリセットソング	曲数	50(ピアノ曲)、5(音色デモ曲)
	フォーマット	録音	SMF(フォーマット0)
		再生	SMF(フォーマット0、1)、ESEQ(ピアノプレーヤー用ソングのみ)
録音/再生(オーディオソング)	時間(最大)	80分/曲	
	フォーマット	.wav(サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo)	
ファンクション	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	○
		トランスポーズ	○
		チューニング	○
		スケール	7
		インテリジェントアコースティックコントロール	○
メモリー	内蔵メモリー	約1.5MB	
	外付けドライブ	USBフラッシュメモリー(別売)	
接続端子	MIDI	IN/OUT	
	ヘッドフォン	[PHONES]×2	
	AUX IN	[L/L+R] [R]	
	AUX OUT	[L/L+R] [R]	
	USB TO DEVICE	○	
	USB TO HOST	○	
アンプ/スピーカー	アンプ出力	(40W+40W)×2	
	スピーカー	(16cm+1.9cm)×2	
電源	電源	AC 100V 50/60Hz	
	消費電力	50W	
付属品	同梱品	保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)、電源コード、キーパーティー、高低自在イス、ユーザー登録のご案内、フェルトセット	

* 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売品のご紹介

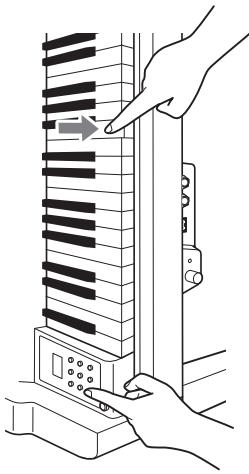
ヘッドフォン

HPE-160

索引

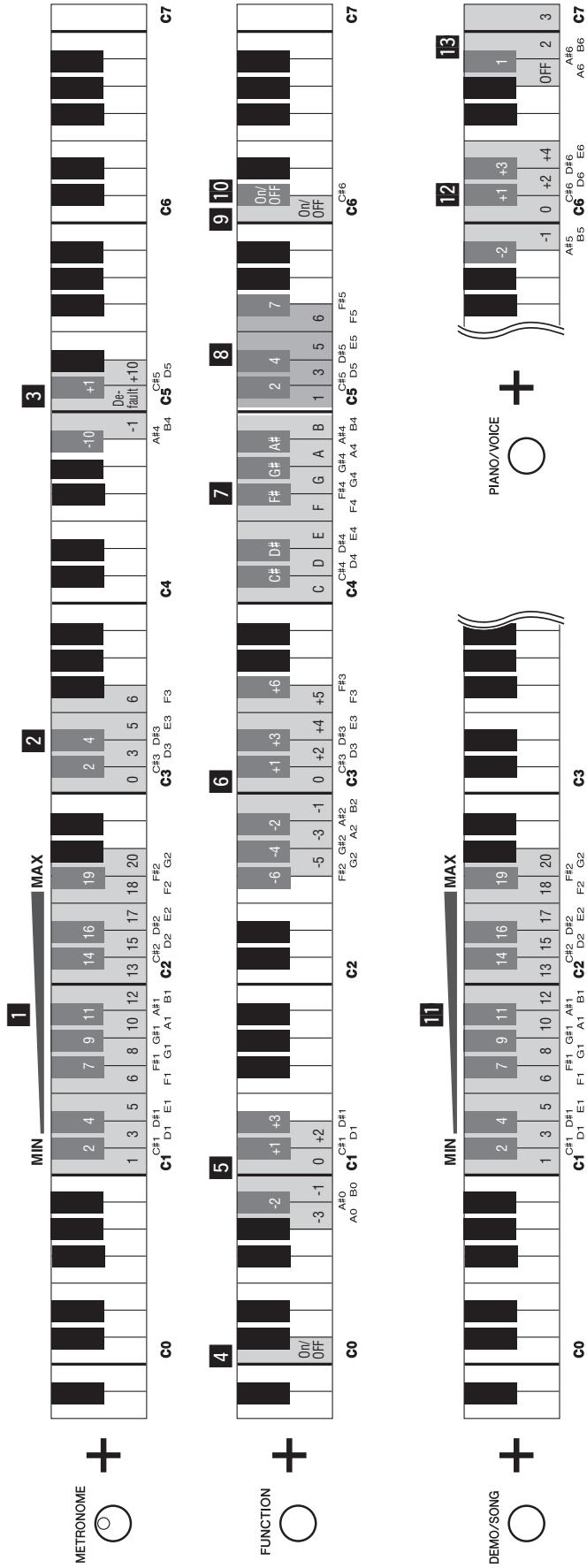
A	
AUX IN	27
AUX OUT	28
G	
GPレスポンスダンパーペダル	11
H	
Hz (ヘルツ)	16
I	
I. A.コントロール	12
M	
MIDI.....	27, 29
MIDIソング	18
MIDI入門	3
MIDIリファレンス	3
MIDI録音	21
U	
USB [TO HOST]	27
USB TO DEVICE	23, 28
USBフラッシュメモリー	23
ア	
アフターサービス	36
安全上のご注意	4
イ	
インテリジェント アコースティック コントロール	12
ウ	
ヴェルクマイスター音律	17
オ	
オーディオソング	18
オーディオ録音	21
オール	19
お手入れ	32
音の高さ	16
音色	13
音色デモ曲	13
音色リスト	13
音律	17
音量(オーディオソング)	19
音量(全体音量)	10
音量(メトロノーム)	14
カ	
外部ソング	18
画面	8
キ	
キー(調)	16
キルンベルガー音律	17
ク	
クイックオペレーションガイド	35
コ	
コピー	24
困ったときは	31
コンピューターとつなぐ	3
サ	
再生	18, 19
再生(デモ曲)	13
削除	25
残響	15
シ	
純正律 短調	17
純正律 長調	17
仕様	33
初期化 (USBフラッシュメモリー)	23, 24
初期化(楽器)	26
ソ	
ソング	18
ソングカテゴリー	18
タ	
タッチ感度	15
チ	
チューニング	16
中全音律	17
調律	32
テ	
デモ曲	13
デモ曲リスト	13
電源	9
テンポ	13, 14, 19
ト	
トランスポーズ	16
ノ	
ノイズゲート	28
ハ	
ハーフペダル	11
ハーフペダルポイント	11
ハーフペダルポイントの設定	11
バックアップデータ	26
早送り	19
ヒ	
ピタゴラス音律	17
拍子	14
フ	
フォーマット(初期化)	23, 24
付属品	3
譜面立て	9
ヘ	
平均律	17
ペダル	11
ヘッドフォン	12
別売品	33
マ	
巻き戻し	19
メ	
メッセージ一覧	30
メトロノーム	14
モ	
文字種	20
ユ	
ユーチューザソング	18
ラ	
ランダム	19
リ	
リバーブ	15
ロ	
ローカルコントロールオン/オフ	29
録音	21

クイックオペレーシヨンガイド



操作パネルのボタンを押したまま該当する鍵盤を押して、シンクを選んだり値を設定したりします。

1 メトロノーム音量	(14ページ)
2 メトロノームの拍子	(14ページ)
3 メトロノーム/シンクのテンポ	(14ページ)
4 A.コントロールオン/オフ	(12ページ)
5 A.コントロールのかかり具合	(16ページ)
6 トランスポーズ	(16ページ)
7 ベース音	(17ページ)
8 音律	(17ページ)
9 ローカルコントロールオン/オフ	(29ページ)
10 AUX IN ノイズゲートオン/オフ	(28ページ)
11 オーディオシンク音量	(19ページ)
12 ハーフペダルポイント	(11ページ)
13 タッチ感度	(15ページ)



保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。

有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

*全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。
上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830

受付時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:00(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX

東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125

西日本 (沖縄/九州/中国/四国/近畿/北陸) 06-6465-0367

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45 (祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX 03-5762-2125
西日本サービスセンター 〒554-0024 大阪市此花区島屋6丁目2-82 ユニバーサル・シティ和幸ビル9F FAX 06-6465-0374

● ハイブリッドピアノ NU1の機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-006-808

*全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。
上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-5272

営業時間

月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハ株式会社

ピアノ事業部

〒436-0038 静岡県掛川市領家1480

◆ ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ

<http://jp.yamaha.com/>

ヤマハ ピアノ・鍵盤楽器サイト

<http://jp.yamaha.com/piano/>

ヤマハ ダウンロード

<http://download.yamaha.com/jp/>

ヤマハ 音楽データショップ

<http://www.music-eclub.com/musicdata/>

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、
あらかじめご了承ください。

U.R.G., Digital Musical Instruments Division
© 2011 Yamaha Corporation

302POAP*.*-**B0
Printed in China

WZ13570